

『エスカレーター』 作：ポチ子

『エスカレーター』 作：ポチ子

運動のために階段を上る。

いつからか始めた習慣。

気づいたら身についていた。

私は、

疲れた日も、

しんどい日も、

悲しい日も、

階段を上る。

今日だってそうした。

疲れているから、足が重い。

いつもより時間をかけて上る。

そうしていたら、

私の隣をエスカレーターで昇る人たちが通り過ぎた。

向かう場所は同じなのに、

息切れしてるのは私だけ。

それでいてただ乗っているだけなのに、

私なんかよりも早く上に辿り着く。

悔しいならエスカレーターに乗ればいい。

簡単そうで、

今までせっかく階段を上ってきたのにか、

せっかく身についた習慣なのにか、

どーでもいい事に心がとられて、

結局、階段を上ってしまう。

楽しんでるいな。

自分で選んだ苦勞のくせに、

勝手に恨んだりして。